

極楽通りに笑顔が溢れる

～第43回登別地獄まつり～

8月26日(土)・27日(日)の2日間、登別温泉街で『第43回登別地獄まつり』(市、登別観光協会主催)が開かれ、延べ約3万9,000人の市民や観光客でにぎわいました。

26日は、同まつり実行本部長の白田明義さんと登別温泉小学校児童会副会長の中島陽くん、登別中学校生徒会長の佐藤汐莉さんのテープカットで開幕。引き続き登別温泉小学校児童による『オニッコマーチングバンド』のパレードと演奏会が行われ、歩行者天国となった極楽通りでは、市内外の太鼓の団体による演奏や『足湯体験』『遊びコーナー』などが行われました。

夜には、登別中学校や登別厚生年金病院のみこし、重さ1トンの赤鬼みこしが極楽通りを練り歩き、市民や観光客が一緒になって踊る『鬼踊り大群舞』『仮装鬼踊りコンテスト』などでまつりは最高潮に盛り上がり、『エンマ大王山車』が登場すると、市民や観光客から大きな歓声が上がっていました。

このほか、登別中学校の生徒による郷土芸能『熊舞』の披露や『吹奏楽部演奏会』『地獄ラーメン早喰い競争』などが行われ、27日夜の『ファイナル花火大会』でまつりは幕を閉じました。



ドングリは動物にとって大事な食糧

～日和山周辺の
エゾリンドウ観察会～



9月4日(月)、日和山森林浴コースで『日和山周辺のエゾリンドウ観察会』(助自然公園財団登別支部、市観光ホスピタリティ推進協議会主催)が開かれました。

この日、案内役を務めた登別温泉ネイチャーセンターの遠山久司さんが、ミズナラの木の下で「ドングリが不作の年は動物も減り、ドングリに依存している動物が多いことが分かります。動物には大事な食糧なんです」と説明していました。

参加者は「道路から森の中の方に入ったことはありませんでしたが、きれいだということは聞いていました。実際に森の中に入ると本当にきれいですね」と話してくれました。

お目当てのエゾリンドウはまだつぼみが多く、あまり見ることはできませんでしたが、参加者は見かける植物やその名前の由来などの説明に熱心に、耳を傾けていました。

朝揚げサケの抽選に大きな歓声

～第29回登別漁港まつり～

9月9日(土)・10日(日)の2日間、登別漁港で『第29回登別漁港まつり』(同実行委員会主催)が開かれ、会場は新鮮な海の幸を求める大勢の市民でにぎわいました。

大漁旗を飾った漁船が岸壁に連なる華やかな雰囲気の中、海産物即売コーナーでは、親子連れなどが地元産のタラコやホッキ、サケ、カニなどを次々と買い求めていたほか、毎年人気を集める朝揚げサケ抽選即売には、捕れたてのサケを引き当てようと、整理券配布から長蛇の列ができ、抽選が行われるたびに会場から大きな歓声が上がっていました。

このほか、北海道開発局監督測量船『みさご』による『体験乗船』や『JAくりやま農産物即売会』『花火大会』『ビンゴゲーム大会』『和太鼓演奏』など、多彩な催しも行われ、来場者を楽しませていました。

